

2017年度 自伐型林業家 養成塾 概要

目的・背景

持続可能な環境共生社会に向けた自伐型林業が北海道でも本格スタートします。

北海道において今までなされていなかった自伐型林業の普及を目指すと共に、全道各地に持続的森林経営者の真の担い手を創出します。そのための自伐型林業の技術習得を目的とした研修事業「自伐型林業家養成塾」を実施します。

～『北海道型』の自伐型林業を目指して～

北海道の林業は森林組合などが主体となり高性能林業機械などを利用し集約的施業が進められています。自伐型林業は山林所有者や地域住民、林業家などが地域から離れず、小規模の限られた森林から永続的に収入を得ていく林業。自立自営のごくごく普通で当たり前の林業です。副業でも専業でも成り立ち、専業では年収400万円以上を得る事も可能です。低投資で始められ、大型機械も使用しないので、環境に優しい林業です。北海道では戦後の造林で育った木が充実期を迎えていると言われてはいますが、人工林は50年皆伐からの植林を繰り返し、天然林も皆伐施業が横行し森林の持続性が失われつつあります。環境配慮・地域就労・地方創生・諸々の課題解決には「自伐型林業」が決めてとなります。

開催概要

講座の目標	自伐型林業に関する基礎的知識や技術を身につけ、実践（自伐化）に向けた知見を得る。
期間	2017年8月4日～2017年11月11日（計10日間）
場所	研修林は人工林と天然林を設けます。 「夢見の森」洞爺湖町月浦94-296（人工林） （株）大西林業 施業林 白老郡白老町字石山（天然林）
費用	15,000円／1人 税込み・保険料込み 1回（2日間）のみの単発受講も可能です。費用は各研修に応じています。
定員	15名（最少催行人数10名） ※一部公開講座あり定員30名
お申込み	こちらのフォームから申し込みいただくか申込み用紙に記載し事務局までFAXまたはお電話にてお申込みください。 事務局「ならの木家」TEL / FAX 0144-82-3852 受講を迷ってらっしゃる方などご相談はkitanojibatu@athena.ocn.ne.jpまで。 ◎全日程参加の方を優先しますので、単発でのお申し込みの方は締切日を過ぎて空きがある場合のみ受講可能となります。 ◎先着順、費用のお振込み順に受講者さまを確定させていただきます。 ◎お振込みいただいた後のキャンセルご返金は原則応じられませんのでご了承ください。
応募締切	2017年8月1日（火）

カリキュラム

日時	講座内容	講座詳細	場所	講師	単発参加費用
8月4日（金） 8月5日（土） 両日とも 9:00～16:00	チェーンソー	<チェーンソー安全講習会> チェーンソー取扱い技術及び実技についての基本的な技術を習得します。立木の伐倒・玉切りなど。	「夢見の森」 洞爺湖町月浦94-296	清水 省吾	3,000円
8月25日（金） 9:00～16:00 8月26日（土） 9:00～15:00	選木・伐倒・集材	様々な立木の伐倒を1名づつ行います。林内作業車を使って安全に集材する技術を学びます。	「夢見の森」 洞爺湖町月浦94-296	山口 祐介	3,000円
9月15日（金） 9:00～16:00 9月16日（土） 9:00～15:00	作業道敷設研修① ※公開講座	座学・路線設計・作業道敷設 実際の現場で山林の考察をしながら作業道を敷設します。	「夢見の森」 洞爺湖町月浦94-296	岡橋 清隆	3,000円
10月20日（金） 9:00～16:00 10月21日（土） 9:00～15:00	作業道敷設研修②	路線設計・経営相談 実際の現場で作業道を敷設します。また、中嶋健造氏より各人が自伐型林業を実践していくための個別相談を実施します。	「夢見の森」 洞爺湖町月浦94-296	岡橋 清隆 中嶋 健造	3,000円
11月10日（金） 11月11日（土） 両日とも 9:00～16:00	広葉樹施業研修 ※公開講座	作業道敷設 除間伐によるミズナラの長伐期施業。 ホダ木の採材	（株）大西林業 施業林 白老町字石山	橋本 光次 大西 潤二	3,000円

注記

- 講座の1回のみ単発参加（1日間のみでも1回分の受講料）も可能です。上記費用欄をご参照ください。
- 作業道敷設実技は基本的に見学のみとなります。しかしながら3トン～3.5トンのユンボの操作資格（小型特殊）を取得されることをお勧めいたします。資格をお持ちの方には雨天時や空いた時間を利用してユンボの実習を行うことが可能です。いずれにしても、受講後、本格的に自伐型林業を始めるためには作業道敷設は重要なスキルとなりますのでユンボとその操作能力が必要です。
- 受講生には傷害保険に加入していただきます。手続き、費用につきましては、主催者で行います。各自用意していただくものは、筆記用具、作業しやすい服装（長袖着用）、ヘルメット（チェンソー作業用は貸出も可）手袋、長靴（スパイク付きをお勧めします。）、雨天時の雨具、昼食・飲み物などです。
- 宿泊先は当会では用意しておりませんので、各自、近場のホテルなどでご宿泊ください。

講師陣

■中嶋 健造（なかじま けんぞう）

1962年生まれ。高知県いの町在住。

NPO法人土佐の森・救援隊理事長。持続可能な環境共生林業を実現する自伐型林業推進協会理事長。愛媛大学大学院農学研究科修了。著書に「バイオマス収入から始める副業的自伐林業」全国林業改良普及協会。その他、農山漁村文化協会、全国林業改良普及協会、大日本山林会等の雑誌執筆多数。

鳥取大学地域学部非常勤講師（平成21年度～）、内子町小田深山保全・活用検討委員会委員（平成19年度～）、中国四国バイオマス発見活用協議会委員（平成21年度～、農林水産省中国四国農政局）総務省・地域の元気創造本部有識者会議委員（平成24年度～）、総務省・地域力創造アドバイザー（平成26年度～）

IT、経営コンサルタント、自然環境コンサルタント会社を経てフリーに。平成15年、NPO法人土佐の森・救援隊設立に参画し、現在理事長。山の現場で自伐林業に驚き興味を持ち、地域に根ざした環境共生型林業が自伐林業であることを確信し、「自伐型林業+シンプルなバイオマス利用+地域通貨」を組み合わせた「土佐の森方式」を確立させ、真の森林・林業再生、中山間地域再生、地域への人口還流等のために、自伐型林業及び土佐の森方式の全国普及にまい進している。

■岡橋 清隆（おかはし きよたか）

1952（昭和27）年生まれ。奈良県橿原市在住。

吉野林業地で代々山林を経営する清光林業株式会社相談役（創業家）。山林は約1,900haを所有し、日本を代表する林業経営者。

吉野林業再生のためには路網整備と直営化（自伐化）の必要性を痛感し、1979年所有林で作業道づくりに取り組むが、大規模崩壊が発生し中断。翌年道づくりの講師として吉野を訪れた大橋氏と出会い、「自伐施業するなら教える」と言われ、自伐化（直営化）することを約束し、師事。氏の指導のもと、自らが現場に立って先の崩壊地の道を修復。以来、作業道づくりの実績を積み上げ、伝統ある林業地で新しい山林経営を行っている。

吉野林業の伝統である長伐期択伐施業を守り、間伐（多間伐を繰り返す、1階の間伐は2割以下の伐採）の搬出は3トンのミニバックホーで作業道を敷設しながら2トントラックで搬出するという、最近の流行である高投資・高コスト型の高性能林業機械に走らず、シンプルな施業システムを長年実践し、森林経営を安定化させた。奈良型作業道講師。

■橋本 光治（はしもと みつじ）

1946（昭和21）年生まれ。徳島県那珂郡在住。

作業道の第一人者である大橋慶三郎氏の指導を受け、自家山林に高密度路網を開設。作業道の講師として全国で活躍されている。

1978年に先代から森林経営を引き継ぎ、1983年から作業道の開設に取りかかり、森林保全と長伐期優良大径材生産を軸に、針広混交林の山づくりを目指した。高密度の作業道を開設することで、全ての施業を家族で行うことができ、間伐・択伐によって収入を得る自伐林業を実現している。夫婦で内閣総理大臣賞受賞。

■山口 祐助（やまぐち ゆうすけ）

1958年生まれ。兵庫県篠山市在住。

兵庫県に約180haを所有し、作業道を高密度に張り巡らせて、抜き伐りで効率的な木材生産や、針葉樹と広葉樹を混生させた整備を進めている純粋な自伐林家。優れた森林経営が評価され、平成20年の全国林業経営推奨行事（大日本山林会、全国林業改良普及協会主催）において林野庁長官賞を受賞。伐倒から運搬、作業道敷設まで、すべての林業施業の作業を一人でこなすことができるオールラウンダー

■清水 省吾（しみず しょうご）

1986年生まれ。北海道旭川市在住

苫小牧市出身 幼少期から生き物、アウトドア好き。

2009年、旭川大学卒業後、NPO法人もりねっと北海道へ就職し突哨山（旭川の都市公園）の指定管理を主に担当。2014年に運よく山林を購入、2017年4月より「里山部」という個人事業主として独立。山林がもつ本質的、かつ多方面の魅力と資源を活かして山主・キコリ・ガイド・パパの目線を複合した、自伐とサービス業を複合した事業を展開中

■大西 潤二（おおにし じゅんじ）

1979年生まれ。北海道白老町在住

株式会社大西林業 代表取締役 林業一家の3代目。木炭・薪・ホダ木・木酢液などの生産を手掛け、広葉樹活用による経営を確立。自ら伐採作業もこなしている。

北海道自伐型林業推進協議会 事務局長 2016年12月～

助成支援

公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団、公益社団法人 国土緑化推進機構「緑の募金」、公益社団法人 北海道森と緑の会